

徳島県治山林道協会

# 治山林道協会報

## 新年のあいさつ

徳島県治山林道協会会長 山口俊一



令和五年の新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様におかれましては、ご壮健で新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、日頃より本県の治山林道事業推進に格別のご支援、ご協力をいただき、重ねて厚くお礼を申し上げます。

さて、今年の干支は「癸卯(みずのと・う)」でございますが、「癸」は「次の生命を育む準備が完了した状態」、そして「卯」は「草木が地面をおおうようになった萌え出る春」を表しています。このことから、「癸卯」は「厳冬が去り、春の兆しが訪れる年になると言われています」。

昨年は、北京冬期オリンピック後に始まり今尚続き、世界経済に大きな影響を及ぼしているロシアによるウクライナ危機、安倍元総理が凶弾に倒れるということでもない驚天動地の悲惨な事件、そしてオミクロン株等の変異株による新型コロナウイルス感染症の一向に収束の見通せない状況など波乱に満ちた一年でした。

また一方、山村地域に目を向けますと、ウッドショックや円安の進行によるエネルギーや物価の高騰により、地域経済を取り巻く現状は厳しさを増しており、更に追い打ちを掛けるように気候変動の影響に伴う、七月・八月の豪雨や九月の相次ぐ台風襲来などにより、河川の氾濫や土砂災害が発生し、多くの尊い人命や貴重な財産が失われました。

このような状況の中、林野公共事業におきましては、国民の皆様様の生命と生活を守るべく、大規模災害に備えた事前防災・減災や復旧対策の充実と強化などの「緑の国土強靱化」、そしてカーボンニュートラルを見据えた「グリーン

成長」の実現に不可欠な「幹線林道等の基盤整備及び強靱化」を推進するため、更なる予算確保に向けて、「2022治山・林道のつどい」や森林整備・治山事業促進議員連盟緊急決起大会などの各種要望活動を展開して参りました。

その結果として、「防災・減災、国土強靱化のための5カ年加速化対策」、「カーボンニュートラル実現に向けたグリーン成長」、「路網の整備・機能強化対策」などの林野公共関係予算(治山・森林整備)は、令和四年度補正予算と令和五年度当初予算と合わせますと、二、六三四億円に達し、目標額である二、六〇〇億円を五年連続でクリアすることが出来ました。

私は一昨年の秋からは議院運営委員長として、国会を運営する立場となり、昨年末の臨時国会では奔走する毎日でしたが、引き続き各種施策が進展していくよう円滑な国会運営に力を尽くすとともに、当協会の会長として、また、「森林整備・治山事業促進議員連盟」(社)日本治山林道協会・日本林道協会」の会長として、治山林道事業の推進に向けて、「予算の確保」「事業の着実な執行」に精一杯努力して参ります。

今年の干支、「癸卯」は、「寒気が緩み、萌芽を促す年」になるそうなので、コロナ禍以降の停滞し続けていた世の中に、そろそろ希望が芽吹く春がやってくることを心より願っております。

結びとなりますが、今後とも、なお一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、会員皆様様の更なるご活躍、ご健勝を心より御祈念申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。

● 新年のご挨拶	徳島県知事 飯泉嘉門	1	● 「ドローンを活用した災害時情報収集演習」の開催	13
● 新年のご挨拶	徳島県農林水産部長 平井琢二	2	● 年男の抱負	14
● 治山林道事業に関する知事への要望		3	● 2023年度版 全森建福祉共済制度	15
● 「2022治山・林道のつどい」及び治山・林道コンクール表彰式の開催		5	● とくしま木づかいフェア2022への出展	17
● 森林整備・治山事業促進議員連盟「緊急決起大会」の開催		7	● 令和4年度全国森林土木建設業協会写真コンクール	17
● 令和4年度「全森建」技術・労働委員会開催		8	● 本協会の主な動向(10月~12月)	17
● 治山林道技術研修会開催		9	● 編集後記	17
● 大里松原地区の海岸防災林再生へ向けての取り組みについて		11		

目次

CONTENTS



徳島県知事

飯 泉 嘉 門

# 新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。

徳島県治山林道協会の皆様におかれましては、輝かしい新年をお健やかに迎えることと、心からお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の影響が長引く中、ロシアのウクライナ侵攻により、国際秩序が大きく揺らぐとともに、世界中でエネルギー価格や物価が高騰するなど、世界情勢が激変した一年となりました。

本県では、この歴史的な危機に対し、県民の皆様の「暮らしと命」、「業と雇用」を守るため、「宿泊助成」や「飲食・交通・生活衛生」三つのプレミアムクーポン事業による需要喚起をはじめ、借り換え需要に応える「資金繰り支援」の充実強化や「燃油・飼料・肥料の価格高騰による負担」の軽減、さらには、経済的に困窮する方々への「支援金の給付」や子ども食堂への障がい者就労支援施設等で生産された県産食品や県産米の支給など、切れ目の無い支援を実施して参りました。加えて、新型コロナウイルス追加接種の加速や感染傾向を踏まえた無料抗原検査の推進、「全数調査の見直し」後も誰一人取り残さない、「とくしま健康フォ

ローアップセンター」による療養者支援など、ウィズ・コロナ対策を講じて参りました。

一方、森林土木分野では、徳島県治山林道協会はじめ県や全国知事会からの提言により一昨年に実現した、「防災・減災、国土強靱化五か年加速化対策」を積極的に活用し、これまで、治山事業四十一カ所、林道事業三路線の災害復旧や事前防災対策を全力で進めて参りました。

さて、今年の干支は「癸卯（みずのとう）」。 「癸」は物事を揆（はか）る基準を表し、万事筋道を立てて処理すれば「吉」、誤ると「凶」を意味し、「卯」は門扉を開いた姿を象形するとともに、荊（かや）に通じ「良いと繁栄、悪いと紛糾」を意味します。そこで、「癸卯」は、「筋道を立てて事を進めれば「繁栄」が約束され、怠れば紛糾し、混乱へと向かう」とされます。

いよいよ「大阪・関西万博」まで二年、消費者行政・消費者教育はじめ「SDGs先進県・徳島」としての高いポテンシャルや「5G遠隔医療」、究極のクリーンエネルギー「水素」など、本県がリードしてきた分野を世界に発信し、新たな人

の流れを積極的に呼び込むとともに、半世紀越しの「プロ野球公式戦」開催の夢をのせた「オロナミンC球場」の改築、世界中のサイクリストと本県との夢の架け橋「大鳴門橋自転車道」の早期整備など、世界が注目する徳島の更なる発展の礎を構築して参ります。

また、頻発化・激甚化する大規模自然災害を迎え撃つ「県土強靱化」を加速し、安全・安心な地域社会の構築にしっかりと取り組んで参ります。そして、中山間地域の「守り手」である会員の皆様からの数々の声を踏まえ、次代を担う若者の就業促進に向け、子供の頃から土に触れ、森林土木の魅力を感じながら学べる新たな森林環境教育「土育（つちいく）」を積極的に展開するとともに、「デジタル技術」を実装し、真に魅力ある「新たな森林土木」を創出すべく、地域の「ソフパワー強化」にも取り組んで参りますので、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

結びに、徳島県治山林道協会の今後ますますのご発展と、会員の皆様のご健勝、ご活躍を心から祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

# 新年のご挨拶

徳島県農林水産部長

平井 琢 二



明けましておめでとうございます。徳島県治山林道協会の皆様には、夢と希望にみちた、新しい年を晴れやかに迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

また、平素より治山林道事業をはじめ、本県農林水産行政全般にわたり、格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、発生から三年が経過した今もお、世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症に加え、ロシアのウクライナ侵攻や急激な円安進行を背景とした、木材需給の逼迫やエネルギー価格の高騰などにより、本県の林業・木材産業にも大きな影響が及んでおります。

このような危機に即応すべく、県では、緊急的に開かれた令和四年五月臨時議会において、「県有林」からの主伐による原木の供給促進や「民有林」における主伐加速化を積極的に図る「主伐加速化・県産材緊急確保事業」、及び「県産構造材」の増産に取り組む中小製材工場に向けた「人工乾燥機の導入支援事業」を盛り込んだ「五月補正予算」を編成し、速やかな事業執行に務めるとともに、林業生産基盤の核となる「林道整備」の積極的な推進にも取り組んでおります。

一方、近年、豪雨災害が増加する中、昨年八月の「前線停滞」や、気象庁が「過去に例がない危険な台風」として最

大級の警戒を呼びかけた「台風第14号」などに伴う、記録的な大雨により、北陸や東北、九州地方をはじめ全国各地で土砂災害が発生し、多くの尊い人命や貴重な財産が失われております。

このように自然災害が頻発化・激甚化する状況のもと、本県においては、徳島県治山林道協会や本県はじめ地方団体からの度重なる提言により、令和二年十二月に創設された「防災・減災、国土強靱化のための五か年加速化対策」を積極的に活用し、これまでに、四十一カ所の治山施設で復旧・予防対策、三路線の林道で開設・改良工事を実施するなど、早期の災害復旧や事前防災対策に取り組んできたところであります。

また、昨年末の経済対策に盛り込まれた国補正予算にいち早く呼应し、速やかに事業推進を図るべく、「十一月補正予算」として関連予算を編成したところであり、あらゆる関係者が協働して新次元の治水に取り組む「流域治水プロジェクト」とも連携を図りながら、更なる「防災・減災、国土強靱化対策」を推し進めて参ります。

さらに、来る令和五年度当初予算につきましましては、先の十一月補正予算と合わせた「十六か月予算」として編成することとしており、今後とも事業効果の早期発現を目指し、切れ目のない事業展開を図って参ります。

そして、治山林道事業の重要な担い手でもある中山間地域の「守り手」を確保するためには、「若者の就業促進」に向けた「人材育成」の強化が不可欠との認識のもと、この度、子供の頃から「土に触れ」、森林土木の魅力を感じながら学べる「土育（つちいく）」を新たに展開することといたしました。

具体策として、まずは、今年度中の完成をめざし「森林土木」の魅力や「森林づくり」の大切さを紹介する「ショートムービー」を鋭意制作中であり、完成後は、広く県民の皆様へPRするとともに、小中学生を対象とした「山の建設現場」の見学会や、建設重機のデモンストラクションをはじめとする「出前授業」の開催など、「DX導入による働き方改革」と合わせ、未来を担う若者の就業促進を図り、地域の「ソフトパワー強化」に取り組んで参ります。

今後とも、皆様との緊密な連携協力のもと、中長期的な観点にも重きを置き、創意工夫をこらしながら、あらゆる自然災害にしっかりと備える「緑の県土強靱化」に全力で取り組んで参る所存です。

結びにあたり、徳島県治山林道協会の未来に向けての更なるご発展と会員の皆様のご健勝、ご活躍を祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

皆様、本年もよろしくお願い申し上げます。

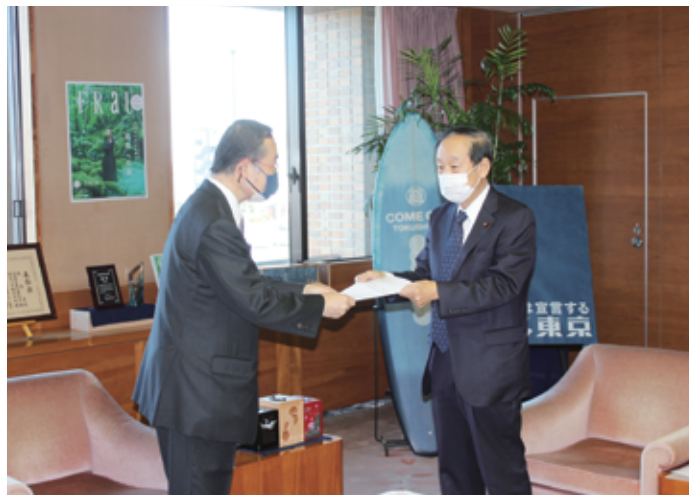
# 治山林道事業に関する 知事への要望

令和四年十二月十九日、飯泉徳島県知事に対し「治山林道事業に関する要望」を、山口会長はじめ役員十二名で行いました。

要望の主な内容は

- ・「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を着実に推進するために必要な予算の安定的・継続的確保
- ・集中豪雨や台風、南海トラフ、活断層帯の地震による大規模災害に備えた事前防災・減災対策、復旧対策の充実と強化など「緑の国土強靱化」の推進
- ・カーボンニュートラルを見据えた「グリーン成長」の実現を目指す「森林吸収源対策」の強化や「林業の成長産業化」に資する林道を核とした路網整備の推進
- ・山間奥地、急斜面等条件不利地での施工における現場条件に応じた適切な設計積算による費用の確保及び昨今における資材高騰等の状況を踏まえた適切な対応
- ・中山間地域における建設業者への若者等の就業を促進するための人材育成等の環境整備

の五点について、令和五年度当初予算編成に向けた要望を行いました。



これに対し知事からは、今後とも「防災・減災、国土強靱化」に取り組み、国の補正予算・令和五年度当初予算を最大限に活用することにより、十一月補正から切れ目無く事業を実施できる「十六ヶ月予算」を措置し、治山林道事業を強力に推進していきたいとの力強いお言葉をいただきました。

要望事項は次の通りです。



# 治山林道事業に 関する要望書

平素は、治山林道事業の推進並びに本会の活動につきまして、格別の御配慮を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、森林は、県土の保全や水源の涵養、地球温暖化防止等の多面的機能を有し、私たちの豊かな暮らしを育むなど、県民の生活に欠かすことのできない重要な役割を果たしております。

一方で、近年、気候変動の影響に伴う記録的な大雨の頻発化や台風の大型化などにより、全国各地で山腹崩壊や林道の決壊等激甚な被害が多発しており、今年も北陸や九州地方をはじめ各地で河川の氾濫や土砂災害が発生し、多くの尊い人命や貴重な財産が失われました。

また、長引く新型コロナウイルス感染症の影響に加え、ウッドショックやウクライナ危機、さらには円安進行などにより、山村の地域経済は疲弊し、森林・林業を取り巻く現状は厳しさを増しております。

このような状況の中で、山村経済を活性化するため、県産材の安定供給体制の確立に向けた生産基盤の整備や、主伐後の再造林等の適正な森林管理をより一層推進することが喫緊の課題となっております。

また、激甚化・多様化する台風・前線等に伴う「豪雨災害」や切迫する「南海トラフ巨大地震」、「活断層地震」などの「大規模な自然災害」に備える山地防力の強化が強く求められています。

これらに対応するためには、山地災害等に対する事前防災・減災対策の推進や効率的な林業経営に向けた幹線林道整備の加速など、「緑の国土強靱化」に資する治山林道事業の円滑な遂行が不可欠であります。

つきましては、県の財政事情が非常に厳しい中とは存じますが、令和五年度当初予算編成にあたりましては、次の事項について、特段の御配慮を賜りますようお願い申し上げます。

○「防災・減災、国土強靱化のための五年加速化対策」を着実に推進するた

めに必要な予算の安定的・継続的確保  
○集中豪雨や台風、南海トラフ、活断層帯の地震による大規模災害に備えた事前防災・減災対策、復旧対策の充実と強化など「緑の国土強靱化」の推進

○カーボンニュートラルを見据えた「グリーン成長」の実現を目指す「森林吸収源対策」の強化や「林業の成長産業化」に資する林道を核とした路網整備の推進

○山間奥地、急斜面等条件不利地での施工における現場条件に応じた適切な設計積算による費用の確保及び昨今における資材高騰等の状況を踏まえた適切な対応

○中山間地域における建設業者への若者等の就業を促進するための人材育成等の環境整備

令和四年十二月

徳島県治山林道協会 会長

山口 俊一

# 「2022治山・林道のつどい」及び 治山・林道コンクール表彰式の開催

令和四年十一月十六日、東京都内の海運クラブ二階ホールにおいて、「2022 治山・林道のつどい」が、全国治山林道協会会長会議の主催で開催されました。

今年度は、昨年を上回る一〇五名の国會議員を迎え、本協会員をはじめ、全国森林土木建設業協会、日本林業土木連合協会及び各都道府県治山林道関係者、更には全国各地よりウェブによる参加があり、昨年とほぼ同じ約四〇〇名の方々が参加されました。

この「つどい」は、頻発する山地災害や森林・林道被害を受け、地域の社会基盤である森林・山村を守るため、治山事業及び森林整備事業による「緑の国土強靱化」、「森林吸収源対策の着実な推進」に不可欠な林道等路網整備の強力な推進に向けた林野公共事業予算の確保・拡充を実現するため、関係者一丸となった要請活動として行われました。

山口会長の挨拶、野中農林水産副大臣の祝辞、中谷自民党林政対策委員長からの激励の言葉に続き、林野庁小坂森林整



2022 治山・林道のつどい



野中農林水産副大臣からの激励の言葉



山口会長の挨拶

備部長から森林整備事業・治山事業の推進について「基調報告」、そして現場の第一線でご尽力されている県協会長による「現場からの切実な声」の後、「林野公共事業予算の拡充に関する決議文」が採択され、成功裡に終了しました。

翌十七日には、本県選出の国会議員に対し、決議内容について要望活動を実施し、各事項についてご理解ご賛同をいただきました。

また、「つどい」に引き続き、令和四年度治山・林道コンクール表彰式が行われました。本県では、林野庁長官表彰一名をはじめ、併せて五名の方々が各賞を受賞されました。受賞者の皆様方はつぎのとおりです。誠におめでとうございます。

## 治山・林道コンクール表彰者

### 林野庁長官賞

#### ●第四十五回林道維持管理コンクール

三好市長

高井美穂

三好市 谷間豊永線

### 日本治山治水協会賞

#### ●第三十八回民有林治山工事コンクール

株式会社元木土建

元木啓悟

東みよし町 地すべり防止事業 野住

#### ●第二十三回民有林治山木材使用工事コンクール

有限会社長畠工務所

小笠謙

美馬市 復旧治山事業 下大滝



受賞者と前田顧問・織田林野庁長官

### 日本林道協会賞

#### ●第三十八回民有林林道工事コンクール

株式会社谷田組

谷田勝良

海陽町 禅僧線神野工区

#### ●第二十三回民有林林道木材使用工事コンクール

株式会社原田組

根本大輔

美馬市 田野内杖立線檜原工区



林道維持管理コンクールにおいて、長官賞受賞



# 森林整備・治山事業促進議員連盟「緊急決起大会」の開催

令和四年十一月十七日午前十時から、森林整備・治山事業促進議員連盟「緊急決起大会」が自民党八階リバティ2・3において開催されました。

昨今の災害の激甚化やウッドショック等の情勢を踏まえ、国民の「いのち」と「暮らし」を守る「緑の国土強靱化」をはじめ、林業の持続的な発展やカーボンニュートラル等の実現、さらに経済安全保障の観点からの国産材安定供給体制の確保等に向け、林野公共事業は不可欠であり、令和五年度当初予算を確実に措置確保するとともに、国土強靱化に向けた予算も含め林野公共事業予算の一層の増額を目指し、一致団結してこれに対処するため、関係者が集結しました。

新型コロナウイルス感染症の完全な収束が見通せない中でありますが、国会議員四一名をはじめ関係者約一〇名の方々が参加されました。

冒頭で山口会長から「予算編成も大詰めを迎え、補正予算も閣議決定されたが、二、六〇〇億円を大きく上積み出来るよう、予算確保に向けて関係者一丸となって取り組んでいきたい。」との力強い挨拶に続き、現場の第一線でご尽力されている高橋村上市長・佐藤日之影町長からの切実な「現場の声」の後、決議文が採択され、田村幹事長から、「関係者の心をひとつにして予算獲得に頑張っていこう」との決意表明で、盛会の内に終了しました。



中谷自民党林政対策委員会の  
激励の挨拶



世耕参議院幹事長の  
激励の挨拶



山口会長の挨拶



「緊急決起大会」開催状況



# 令和四年度「全森建」技術・労働委員会開催

令和四年十一月一日、東京都千代田区永田町ビルにおいて、「全森建」技術・労働委員会が開催されました。当委員会は、徳島県治山林道協会施工委員会の全国版に相当するもので、年一回開催され、各都道府県協会から提出された設計・積算等に関する改善要望事項について、林野庁と意見交換を行うものです。昨年度までは新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、リモート会議との併用で実施されていましたが、三年振りに対面形式のみで開催されました。

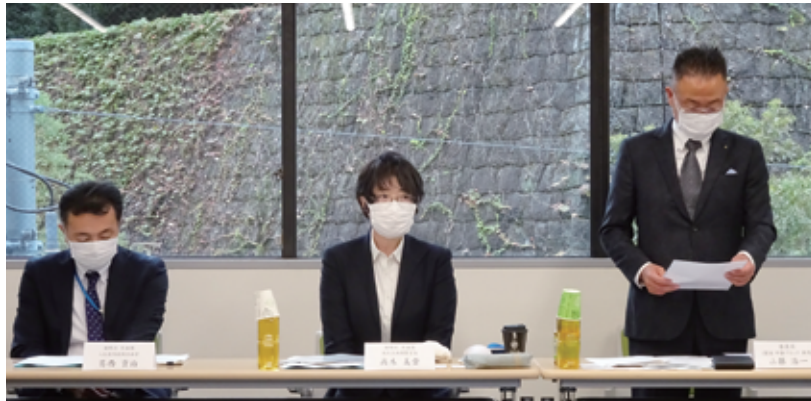
林野庁からは、計画課施工企画調整室・整備課・治山課の各設計積算担当官に御臨席いただき、全森建からは、山藤委員長（群馬県森林土木建設協会会長）ほか各地区代表者十一名の委員が参加しました。

今年度は、各協会から四十五件の要望事項が提出され、それぞれの内容に応じて「設計」「歩掛」「積算」「工期」「その他」に区分し、林野庁の考え方を説明いただきながら意見交換を行いました。

また、林野庁から森林整備保全事業における積算基準に係る取組状況や林野庁版「Construction」についての説明がありました。

本協会は、四国地区代表として、「森林土木工事の施工条件の特性等を踏まえた適切な事業の推進」に向けた次の六件を要望しました。これらの要望については、本委員会における議論を踏まえ、令和四年度末を目途に林野庁の対応等について整理していただくこととなりました。

今後とも本協会施工委員と連携し、地域の実情に応じた要望をあげていきたいと考えております。



山藤委員長挨拶



四国地区要望事項を説明する井関専務



技術・労働委員会開催状況

## ◎四国地区要望事項

- 設計関連
  - ・ 林道の片勾配の設置
- 歩掛関連
  - ・ 週休二日を実施する工事における費用の補正
- 積算関連
  - ・ 人送モノレールの設計計上
  - ・ 実勢価格に合った積算と変更契約
- その他
  - ・ 国庫債務負担行為（ゼロ国債）の拡充
  - ・ 森林土木事業における担い手確保等に向けた環境整備

# 治山林道技術研修会開催

十二月六日から八日の三日間、徳島県建設業協会及び徳島県のご協力のもと、令和四年度治山林道技術研修会を開催しました。

今年度の技術研修会においても、西部・東部・南部の三地区で連日開催し、更に西部地区では「三密回避」のため、会場をメイン会場とサテライト会場



ZOOMによる研修状況の配信

に二分割し、ZOOMを活用することにより、メイン会場からサテライト会場へ研修状況をwebで配信するハイブリッド形式を採用しました。

初日の西部会場を皮切りに、講師の諸先生方により、近年の山地災害の発生事例から学ぶ事前防災・減災対策、安全で事故のない現場管理、そして日々変貌する労働環境の変化への対応など会員の技術力向上を目指した研修を実施し、四会場で約一六〇名の方が受講されました。

また、受講者には全国土木施工管理技士会連合会の継続教育学習制度CPDSの受講証明書(Grant)を交付しました。

今後とも、会員の皆様方の受講機会を増やすとともに、ZOOM等の活用により、研修効果の向上に努めて参ります。

研修の講師及び概要については次のとおりです。  
(敬称は略させていただきます。)

## ■研修Ⅰ 治山事業の推進について

徳島県農林水産部

森林整備課 課長補佐 田岡 純司

毎年日本各地で豪雨による山地災害が激甚化・頻発化する傾向にある。このため、近年の徳島県内での山地災害発生メカニズム等を考察するとともに、



西部メイン会場

今後の豪雨災害への事前防災・減災対策の推進等について解説する。

## ■研修Ⅱ 労働安全衛生について

徳島県治山林道協会 専務理事 井関 廣幸

徳島労働局労働基準部 地方産業安全専門官 吉原 孝司

阿南労働基準監督署 労働基準監督官 吉成 俊輔

全国の労働災害建設業関係の概況と徳島県における労働災害の実態について解説する。そして、その具体的事例から原因究明と治山林道現場における労働災害の回避策についての演習を行う。

■研修Ⅲ 森林土木事業におけるドローンの活用

四国森林管理局徳島森林管理署

地域林政調整官 丸田 泰史

近年、公共土木事業でICT活用が進む中、治山林道事業においては測量調査・施工・維持管理等を推進するに当たり、ドローンの活用が注目されている。

そこで、ドローンを活用する際に必要となる法令、操作技術及び活用事例について解説する。



西部サテライト会場

■研修Ⅳ 土木技術者の原点と今後の対応  
セミナーⅧ

株式会社コンピュータシステム研究所 松野 哲哉

新担い手三法の改正により、本格的に働き方改革・生産性向上・災害時の緊急対応強化が進められることとなったが、これらに対応するための施工管理上の基本的な知識を習得する。

また、令和3年度の伊豆の土石流発生を踏まえ、地盤災害の発生メカニズム等について事例を基に必要な知識を解説する。



東部会場



ドローンの操作技術について



南部会場

# 大里松原地区の海岸防災林再生へ 向けての取り組みについて

徳島県南部総合県民局〈美波〉 黒下 憲彦

## 1. はじめに

大里松原地区は、徳島県の南部、海部郡海陽町に位置し、松林は昭和四十五年から潮害防備保安林に指定され、津波や高潮の防壁として地域に不可欠な松林を形成しており、保健保安林にも指定され地域住民の憩いの場所となっている。この保安林と地域集落を守るため、徳島県では、昭和三十五年から防潮堤や突堤、越波防止のための土盛堤を施工してきた。その一方で、松枯れ被害が認められるため、薬剤散布や樹幹注入ならびに被害木の伐倒駆除が継続的に実施されている。また、地元住民や海陽中学校によって定期的な補植が行われており、積極的な保全活動が展開されている。

## 2. 被害について

令和元年に発生した台風19号は、大里松原海岸の沖を通過し最大瞬間風速二四・一mを記録、波の高さは約八mにおよび、防潮堤を乗り越えた海水と砂は、土盛堤との間の管理道を埋め尽くし、さらに土盛堤を越えて松林に侵入し、民家の手前一〇mまで達した。過去にも同様の台風被害を受けていたが、今回は風向きや潮位のタイミングにより特に大きな被害となった。幸い住宅や農地等への被害は防がれたが、松林全面積約二八haの四割にあたる約一二ha

が冠水した。その結果、冠水したエリアでは塩害によりクロマツやクスノキなどの枝葉が赤く変色し、クロマツ四、〇三九本、クスノキなどの広葉樹七八一本、計四、八二〇本が枯れるという大きな被害となった。



塩害の全景



林内の浸水状況

## 3. 協議会の設置

松林の大きな被害を受けて、保安林機能の維持保全を図るため、大里松原保全対策推進協議会を設置し、早期の松林再生に向けた検討を行うこととした。構成員は、地元住民代表、海陽中学校、海陽町建設課、農林水産課及び徳島県保健福祉環境部、農林水

産部、総合技術センター、その他学識経験者で構成し、協議会では被害状況の分析や今後の松林の復旧計画について毎年協議を行っている。

## 4. 被害原因と復旧対策について

### 被害原因

① 海岸の砂が多く堆積し、防潮堤との落差が少なくなっていたため、海水と砂が防潮堤を越え易くなっていた。

② 林内に侵入した海水が速やかに排水出来なかった。

### 復旧対策

① 海水や砂の侵入防止対策

・ 海岸に堆積した砂については、管理者の県土整備部が定期的な取り除きを行う。

② 林内に侵入した海水の排水対策

・ 北側に設置された土盛堤では、越波を防ぐ一定の効果が見られることから、未施工区間について土盛堤を整備する。同時に林内の排水について検討を行った。

案1 林内の歩道まで盛土による嵩上げを行う

ことで海側へ排水を行い、土盛堤部に歩車道を設置し、排水路として兼用する。

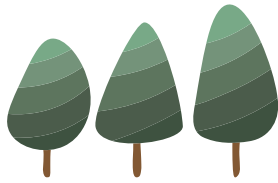
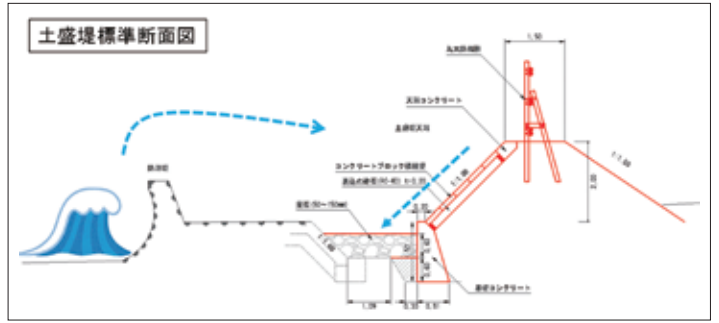
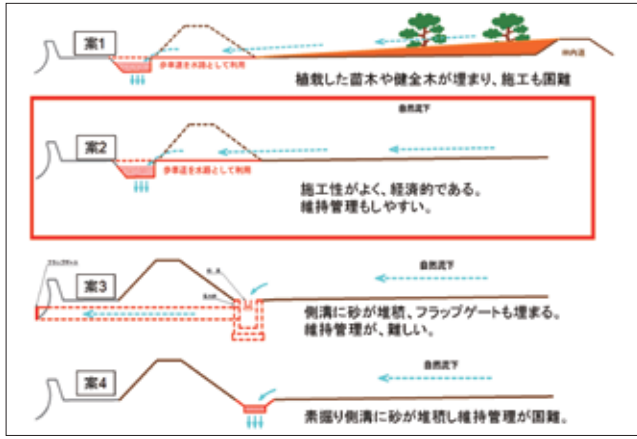
案2 自然流下のみで、案1同様に海側へ排水を行う。

案3 土盛堤の陸側に側溝を設け、集水溝で集めた水を暗渠工により海へ排水を行う。

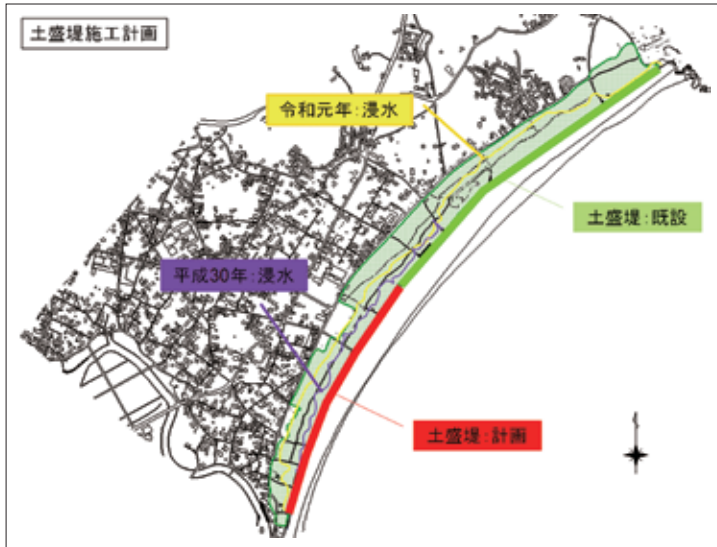
案4 土盛堤の陸側に素掘り側溝を設け、栗石を敷き、そこから地下に浸透させる。

### 検討結果

案1については、すでに植栽した苗木や健全な樹木があり施工が困難であり、案3、案4については、側溝等に砂が溜まり維持管理が困難であり、浸水時に機能しない恐れがあるため、案2を採用した。



植栽状況



③ 伐採、植栽などの森林整備  
 枯損木の伐採については、四、八二〇本のうち令和三年度までに約三、〇〇〇本を伐採しており、残りの約一、八〇〇本について令和四年度中の伐採を目指す。  
 ・植栽について、海岸防災林ではクロマツによる造成事例が多く、海風環境に強いことが実証されている。このことから海側のエリアではクロマツを植栽するが、松枯れの被害も確認されており、病害虫に対する耐性を高めるため、抵抗性種の苗木を採用する。本数については、現況本数や植栽後の管理等も考慮し、一ha当たり五、〇〇〇本とした。また、陸側に植栽する広葉樹については、現状の植生や技術基準等を参考にクスノキ、マサキ、

## 5. まとめ

トベラ等を検討するが、これらについては、県内での生産が少ないため、植栽本数等は今後の課題となっている。

令和元年の台風により海岸防災林が浸水し大きな被害を受けた。そのため、大里松原保全対策推進協議会を立ち上げ、関係機関において協議を重ね、それぞれの組織で計画的に事業を実施することを決定した。令和七年度までの完了を目標とし、その後の維持管理を経て海岸防災林の再生を目指す。近年、地球温暖化に伴う台風の大型化や南海トラフ巨大地震の発生予測もされている中、海岸防災林の役割が一層強くなっている。今回の被害により約八十年かけて作られた松林の大部分を失い、地元住民も風等による住宅地への被害を心配する声が上がっている。同じような被害を少しでも減らし、海岸防災林として松林が一刻も早く再生出来るよう、今後も地元関係機関が協力した取り組みを行っていく。



大里松原海岸

# 「ドローンを活用した災害時情報収集演習」の開催

徳島県森林整備課 森林整備担当



令和四年十一月七日(月)、県立農林水産総合技術支援センター農業大学校(勝浦)において、「ドローンを活用した災害時情報収集演習」を実施しました。当演習は、平成三十一年三月十八日、県と四国森林管理局との間で締結した「林野災害時におけるドローンの利活用に関する協定」に基づき、国・県・市町村等と連携強化のもと、山地災害発生時の災害情報を迅速かつ的確に把握し、早期復旧に繋げることを目的に令和元年度から毎年実施しています。

今回の演習では、国(四国森林管理局、徳島森林管理署)、県、町村(勝浦町、佐那河内村、神山町)及び山地防災ヘルパーなど三十三名が参加し、国、県の若手職員を中心としたメンバーによる、



ドローンによる調査開始



自動飛行の設定



ドローンからの映像(徳島県庁)



ドローンからの映像(徳島森林管理署)

- ・ 手動飛行による林地被害箇所上空撮
- ・ 自動飛行による測量
- ・ 空撮画像をWebex(国)、Zoom(県)による関係機関へのライブ配信

を行い、全てのミッションにおいて、トラブル無くスムーズに演習を進めることができ、発災時においても、迅速かつ正確な災害調査や情報共有の実現が期待できるものとなりました。

さらに、午後からは、近年の航空法の改正や、ドローンを取り巻く環境の急速な変化を踏まえ、関係法令や基礎知識に関する研修会を開催しました。参加者からは、ドローン映像のライブ配信や自動航行設定など、これまで業務で使用したことのない

内容もあり「大変勉強になった」との感想もいただきました。

おわりに、今後も、このような演習を継続して実施するとともに、最大の課題である山間奥地の不感地帯において、インターネット通信を可能とする、「通信中継バルーン」や「衛星通信」などの先進技術の実証を行い、災害対応力の更なる強化・向上を目指してまいります。

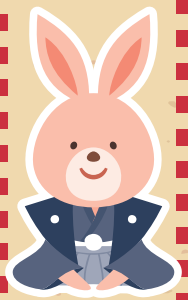


研修会

卯

2023

# 年男の抱負



南部総合県民局〈美波〉  
森林整備担当係長

藤丸 幸典

会員の皆様におかれましては、健やかに新春を迎えることとお慶び申し上げます。

旧年中は公私ともに大変お世話になりました。今年もどうぞよろしく願います。

私は今年で四十八歳になり、四回目の年男を迎えます。振り返ってみますと平成六年に林業職として入庁し仕事の内容もわからないまま徳島庁舎を皮切りに、県営林の管理、鳥獣保護等の一般林業業務に従事し、仕事が終わってからは、職場の同僚や先輩と飲みにいったり、休日にはスキーや釣りに行くことが楽しみでした。平成十五年からは、未経験であった治山・林道業務に携わることになり測量、図面作成、数量計算、工事費積算、現場監督など土木の素人であった私がここまで頑張ってきたのは現場でのご指導していただいた皆様や上司、同僚、先輩等多くの方々のおかげです。仕事を通し現場での物づくりや新しいことを覚えていく楽しさを学ばせていただいたおかげです。この場をお借りしまして改めてお礼申し上げます。

そんな私も、組織の中ではベテランとなり、ふと周りを見ると子供に近い年齢の同僚に囲まれ、自分の仕事と先輩の指導に頭を悩ませている日々です。また森林調査に出向くと「最近山を歩くと膝が痛い

なあ」と上司とおじさんトークしている自分にびっくりしています。(笑)。

現在、森林土木の現場は、人口減少の影響を受け、高齢化も進み担い手が不足する等の課題があり、土木の門をくぐった若手に対しても十分な指導が出来る状態でも、即戦力を求めるようになってきてます。また、ドローン等の新しい技術・知識を習得する必要も増え一人一人の負担が増えてきているのが実態です。

このような状況ですが、今年も卯年です。何でも一人で抱え込むのではなく、人に頼って兎のように時にずる賢く、みんなまで目標へたどりつきましょ。最後になりましたが、今年も皆様方にとって素晴らしい一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



東部農林水産局〈徳島〉  
森林整備担当主事

坂前 奈緒也

新年明けましておめでとうございます。旧年中は会員の皆様には大変お世話になりました。本年も引き続き御指導御鞭撻の程宜しくお祈り致します。

私も、十八歳で徳島県庁へ入庁し、早いもので五年が経とうとしております。

一年目の頃は、森林土木に配属され、設計積算・現場監督・現地測量・計画書作成と一年を通して、多くの基礎・技術・知識を学ばせてもらいました。まったくの素人な私が設計積算なんかできるのかとても不安になりながら、当時の上司に「過去の設計書と図面を引っ張り出して見て」と言われ、過去の図面と設計書の数字を見比べながら、システムで数字を入力し、何とか設計書を作成することが出来ました。それも、当時の上司や周りの皆様方の支えがあったからこそと、今さらながら実感しております。

現在では、東部農林水産局の徳島庁舎にて森林整備担当に在籍し、メンターとなり、指導されていた私が、指導する側の立場となりました。まだまだ未熟者の私ですが新規採用職員と一緒に切磋琢磨しながらさらなる技術向上に向け、努力しているところです。

昨年は異動して一年ということもあり、徳島管内の土地勘がまったくなく現場の場所を覚えるのに一苦労しました。徳島管内は現場の箇所数が多いため、設計書作成に時間をとられ、現場へ赴くことがままならず、事務所の滞在時間が長かったせいか、時間の経過が早かったように思います。今年は時間の許す限り現場へ赴き、現場の声を聞きながら、現場監督員として一人前になれるように日々精進していきたいと思えます。

また、県民の皆様方が安全・安心な暮らしが出来るように、山地災害の未然防止と災害が発生したときの早期復旧を進めるため、山腹や渓流の荒廃地を構造物により安定させ、植栽をすることにより、災害に強い森林を維持・造成し、土砂崩壊防止などの森林の多面的機能を最大限に発揮させられるよう治山担当として、業務に励んでいきたいと思えます。

最後になりましたが本年も皆様方が卯まく(上手く)いき、ピョンピョンと飛躍の一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。

2023年度版 (2023.4.1~2024.3.31)

# 全森建福祉共済制度

— 災害保障特約付団体定期保険 —

ご加入のおすすめ



## 制度の特長

1. お手頃な掛金で大きな保障が得られます。
2. 業務上・業務外を問わず24時間保障されます。
3. 制度への加入申込み、保険金等の受取人は事業主となります。
4. 掛金は全額損金または必要経費に算入できます。
5. 保険期間は1年で剰余金があれば配当金として還元されます。
6. 医師の診査はなく告知書扱いで加入できます。

【ご意向に沿った商品内容か必ずご確認ください】

この保険は、死亡等の保障を目的とする保険期間1年、保険料掛け付捨て型の生命保険です。  
重要事項説明(契約概要・注意喚起情報)ならびに「当パンフレット」に記載の保障内容・保険金額・保険料等がお客様のご意向に沿った内容となっているかを必ずご確認ください。

お問い合わせ先



一般社団法人 **全国森林土木建設業協会**

〒100-0014 東京都千代田区永田町2-4-3 永田町ビル4F

TEL(03)3581-3336 FAX(03)3581-3341



## 福祉共済制度

山間僻地を共通の職場とする「全森建」会員のリスクを全国の仲間で分担し合い、スケールメリットを生かして、会員の事業発展に寄与するとともに「全森建」の絆を更に深めるために創設された制度です。

## 保障内容と月払掛金

希望の口数をご自由にご選択してください。

加入口数		1口	2口	3口	4口	5口						
保障内容	病気による場合	死亡保険金 〔病気等により死亡されたとき〕	200万円	400万円	600万円	800万円	1,000万円					
		高度障害保険金 〔病気等により別表1の第1級（高度障害状態）に陥られたとき〕										
	不慮の事故による場合	死亡保険金 + 災害保険金 〔不慮の事故または別表2の感染症により死亡されたとき〕	300万円	600万円	900万円	1,200万円	1,500万円					
		高度障害保険金 + 障害給付金 〔不慮の事故により別表1の第1級（高度障害状態）に陥られたとき〕										
		障害給付金 〔不慮の事故により別表1の第2級～第6級の障害状態に陥られたとき〕	70万円～ 10万円	140万円～ 20万円	210万円～ 30万円	280万円～ 40万円	350万円～ 50万円					
		入院給付金 〔不慮の事故により5日以上入院されたとき、ただし120日限度〕	1日につき 1,500円	1日につき 3,000円	1日につき 4,500円	1日につき 6,000円	1日につき 7,500円					
月払掛金 (概算)	性別		男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性		
	年齢(生年月日)											
	15歳～35歳 (S62.10.1生～H20.9.30生)		474	391	948	782	1,422	1,173	1,896	1,564	2,370	1,955
	36歳～40歳 (S57.10.1生～S62.9.30生)		526	473	1,052	946	1,578	1,419	2,104	1,892	2,630	2,365
	41歳～45歳 (S52.10.1生～S57.9.30生)		612	519	1,224	1,038	1,836	1,557	2,448	2,076	3,060	2,595
	46歳～50歳 (S47.10.1生～S52.9.30生)		754	623	1,508	1,246	2,262	1,869	3,016	2,492	3,770	3,115
	51歳～55歳 (S42.10.1生～S47.9.30生)		968	747	1,936	1,494	2,904	2,241	3,872	2,988	4,840	3,735
	56歳～60歳 (S37.10.1生～S42.9.30生)		1,272	875	2,544	1,750	3,816	2,625	5,088	3,500	6,360	4,375
61歳～65歳 (S32.10.1生～S37.9.30生)		1,796	1,073	3,592	2,146	(単位:円)						
66歳～70歳 (S27.10.1生～S32.9.30生)		2,526	1,353	5,052	2,706							

(記載の掛金は加入総口数が2,500口以上5,000口未満の場合です。)

☆更新時の年齢により、掛金は変わりますのでご確認ください。

☆記載の掛金は概算掛金であって、正規掛金は申込み締切後算出し、初回より適用します。

☆掛金には制度運営費が含まれています。(保険料とは、掛金から制度運営費を除いた分をいいます。)

## ★ 保障内容について ★

- ◆死亡保険金 保険期間中に死亡されたとき、お支払いします。
- ◆高度障害保険金 加入(増額)日以後の病気やケガによって、保険期間中に別表1の第1級(高度障害状態)に該当されたとき、お支払いします。
- ◆災害保険金 保険期間中に発生した不慮の事故による傷害を直接の原因として、その事故の日から起算して180日以内に死亡されたとき、または保険期間中に発病した別表2の感染症により死亡されたとき、お支払いします。
- ◆障害給付金 保険期間中に発生した不慮の事故による傷害を直接の原因として、その事故の日から起算して180日以内に別表1の障害状態に該当されたとき、お支払いします。
- ◆入院給付金 保険期間中に発生した不慮の事故による傷害を直接の原因として、その事故の日から起算して180日以内に日本における病院・診療所またはこれと同等とみなされる日本国外の医療施設にその傷害の治療目的で5日以上入院されたとき、1日につき、所定の入院給付金をお支払いします(1日目から)。ただし、同一の不慮の事故について通算して120日(更新前の入院日数を含みます。)を限度としてお支払いします。

※不慮の事故とは急激かつ偶発的な外来の事故で約款に定めるものをいいます。

# とくしま木づかいフェア 2022への出展

令和四年十月二十二・二十三日の二日間、板野町「あすたむらんど」において、とくしま木づかいフェア2022が開催され、徳島県治山林道協会ブースを出展しました。

今年も晴天に恵まれ、連日五千人を超える来場者があり、親子連れを中心に、興味深く展示をご観覧いただきました。

出展内容としては、治山林道工事における木材の利用状況や防災減災等に関するパネル展示とミニドロンの操作体験のコーナーを設置しました。

また、山地災害の危険信号や治山事業の効果等を印刷した、紙製クリアファイルを配布し、「県民の暮らしの安心安全」に向けた普及啓発活動を実施するとともに、「林業の成長産業化」を支える「縁の下の力持ち」として、幅広く県民にPRすることができました。



普及啓発活動



ミニドロンの操作体験



紙製クリアファイル

## 令和4年度 全国森林土木 建設業協会 写真コンクール

全国森林土木建設業協会主催の森林土木写真コンクールにおいて、当協会から推薦した笠原慎吾さん(神山町)の作品が全国第二席の優秀賞を受賞されました。誠にめでたくございます。

本コンクールの趣旨は、森林土木の各種事業が、森林・林業を基盤から支えると共に、国民の生命財産を守っているという極めて重要な事業であることを広く国民各層に浸透させ、理解を深めるために実施しています。

笠原さんの作品は、強靱な路網整備で森林資源の循環利用を推進する状況を撮影したもので、本作品は全国森林土木建設業協会の令和五年度労働安全ポスターに採用される予定です。



## 編集後記

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく申し上げます。

昨年は、長引く新型コロナウイルス感染症の影響に加え、ウッドショックやウクライナ危機、更には円安進行などによる波乱気味の一年でした。一方で本県の豪雨等による災害は、3年続けて比較的少なかった状況にありましたが、全国に目を向けますと北陸や九州地方をはじめ各地で河川の氾濫や土砂災害が発生し、多くの尊い人命や貴重な財産が失われました。

このような中で、防災・減災・国土強靱化の推進を含む「経済対策」のための補正予算と令和5年度当初予算を合わせた林野一般公共事業予算は、目標額の2,600億円を上回る2,634億円を確保することができました。

これはひとえに、会員の皆様のご支援・ご協力の賜物です、ありがとうございます。今後ともポスト国土強靱化対策の検討を含め、引き続き予算獲得に向け十分気を引き締めて、取り組んで参りたいと考えておりますので、ご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

編集責任者 井関 廣幸

## 本協会の主な動向 (10月~12月)

- |     |        |  |
|-----|--------|--|
| 10月 | 7日(金)  | 令和4年度施工委員会コンサル関連意見交換会<br>(徳島市:建設センター)                        |
|     | 13日(木) | 全国治山林道協会長会議 (山梨県甲府市)   |
|     | 14日(金) | 〃 (山梨県富士河口湖町)  |
|     | 22日(土) | とくしま木づかいフェア2022(板野町:あすたむらんど)                                 |
|     | 23日(日) | 〃  |
| 11月 | 1日(火)  | 令和4年度全国森林土木建設業協会技術労働委員会<br>(東京都)                             |
|     | 16日(水) | 令和4年度日本林道協会通常総会 (東京都)<br>2022治山・林道のつどい (東京都)                 |
|     | 17日(木) | 令和4年度治山・林道コンクール表彰式 (東京都)<br>森林整備・治山事業促進議員連盟「緊急決起大会」<br>(東京都) |
|     | 21日(月) | 徳島県選出国議員要望活動 (東京都)   |
|     | 21日(月) | 令和4年度全国森林土木建設業協会中国四国ブロック会議 (鳥取県三朝町)                          |
| 12月 | 6日(火)  | 令和4年度治山林道技術研修会<br>(西部会場:三好市・美馬市)                             |
|     | 7日(水)  | 〃 (東部会場:徳島市)   |
|     | 8日(木)  | 〃 (南部会場:那賀町)   |
|     | 19日(月) | 治山林道事業に関する知事要望 (徳島市)   |